

地域農業を支える担い手の育成

令和3～4年度

～青年農業者グループの学習支援～ 【はこだてYAC会員 7名】(地域第2係・課題番号3)

1 課題の背景

「はこだてYAC (ヤング・アグリカルチャー・クラブ)」は、平成12年度に結成し活発な活動を行っていたが平成26年以降活動が停止していた。普及センターの声かけにより平成29年に今後の会の方向性について打ち合わせを行い、会は存続したいという意思を確認し活動を再開した。

函館市の大半の青年農業者は農協青年部に所属しているが、基礎的な農業技術に関して学びの機会が少ないため、YACを学びの場としてとらえ、その活動を支援している。

2 活動内容

令和4年度は、会員の農業生産技術向上と交流を図ることを目的に、5月に年間活動計画を会員と検討し、現地研修会や数回の学習会開催を計画したが、コロナ禍の影響もあり1回の学習活動の支援を行った。



年間活動計画の検討(5/23)



病虫害防除に関する勉強会(7/1)

3 活動成果

- ・7月の勉強会には4名が参加し、内容に対する理解度は総じて高かった。
- ・令和元年の活動再開から令和4年までの4年間で、勉強会7回、現地研修2回、視察研修1回を開催した。
- ・7回の勉強会のテーマは、会員からの要望を受けて設定したものであり、土壌分析・施肥設計に関することが3回、病虫害防除に関することが2回、ドローンに関することが2回で、同じテーマについて繰り返し学習することで、より理解が深まり実践的な知識が身についた。会員からは、「YACによって自分に必要なことが勉強できた」との声も聞かれた。
- ・令和2年～3年にかけては、機械メーカーと連携しドローンによるねぎ畑のセンシングに取り組み、これがきっかけとなり農協青年部でドローン免許取得、機体の購入が検討され、実現した際はYACでは場センシング等の活用に取り組む予定であったが、青年部での免許取得、機体購入が当面保留となったため、YACでの活用も一旦白紙となった。



R3. 6. 29勉強会 (土壌肥料と施肥設計について)

令和1～2年度の活動の一部



R1. 4. 23視察研修(ねぎ育苗について)



R2. 7. 21現地研修(ドローンによるねぎ畑撮影風景)

4 今後に向けて

はこだてYAC設立から20年以上が経過し、創設時からのメンバーが引退していく中で、完全に世代交代の時期を迎えている。会の今後の活動については、若い世代の会員の意向を十分聞いた上で検討していく。一般課題としての活動は終了する。